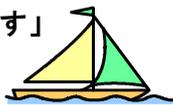




小値賀物語



令和2年8月9日発行

小値賀町立小値賀中学校

校長 池田英二

①求めて学ぶ生徒 ②心を高める生徒 ③たくましい生徒

今回の小値賀物語第7話では、1学期の終業式での学年生徒代表の「1学期の振り返り」の紹介、市中体での活躍、そして平和集会について書いてみたいと思います。夏本番になり暑い日々が続きますが、皆様方も、熱中症対策には十分お気をつけください。

終業式学年代表の言葉（7月20日月曜日）



【1年生 ○○君】



【2年生 ○○さん】



【3年生 ○○さん】

○1年生 ○○君

僕は、1学期を振り返って学んだことを三つ話します。一つ目は、入学式のことです。四月の入学式当日、僕は、中学校生活をとても楽しみにしていました。入学式の最後は、校歌斉唱でした。僕たちは、中学校の校歌をあまりよく知りませんでした。しかし、校歌を四番まで、大きな声で歌っている先輩方を見て、すごいなと思いました。先輩方の声は、とてもそろっていて、綺麗でした。僕も、いつかは、校歌の四番まで、先輩方のように、歌えるようになりたいと思いました。二つ目は、専門委員会の時です。僕は、学芸委員会に所属していました。僕は、最初、委員会の人に、しっかりと自分の意見を伝えることができるかなとちょっと不安でした。実際に、専門委員会が始まると、一年生で話し合っただけで出した意見を学芸部の委員長にきちんと伝えることができました。一方で、他の学年の人の意見の時に先輩方がたくさん考えを発表していたので僕たちは、驚きました。僕は、先輩方みたいに、たくさんの意見を出せるようにしたいなと思いました。三つめは、部活動の時です。僕は、男子バドミントン部に所属しています。ある日僕たちが練習をしているところに校長先生が部活の様子を見に来られました。僕たちは、練習の最中でしたが、校長先生が体育館に入ってこられたときにバドミントン女子の部員が挨拶をしていたので僕たちも真似をして挨拶をしました。僕は、誰かが入ってこられた時には、自分から挨拶をすることが大事だということを学びました。その先輩方に近づけるように二学期は、しっかりとこれらのことを意識して自分たちから行動できるようにしていきたいです。



○2年生 ○○さん

私が、一学期に頑張ったことは、授業中にノートをとることです。黒板に書かれていることだけでなく話の中で重要だと思ったことをノートに書いたり、自分から進んでまとめたりすることができました。ノートに自分の考えを書くことができても、自信が持てず、発表をあまりすることができなかつたので、二学期は、自分から発表ができるように、頑張りたいです。学級全体では、「あいさつ返事をきちんとしよう」という目標を立てて、常に意識してきました。目標を立てたことで、それぞれが、あいさつ返事を以前よりもきちんとすることができるようになってきました。二学期には、きちんとするだけではなく、お辞儀や大きな声ですることを意識して頑張りたいです。また、忘れ物を減らすようにしたいです。去年と比べると忘れ物が減っていると思いますが、一週間前に出された課題やプリントなどを忘れてしまう人がいるので、学校で確認するだけでなく、生活ノートなどにきちんと書いて、家でもしっかりと確認したり、もらったなら早く提出をするなどして、忘れ物を減らすことができるようにしていきたいです。この夏休みは、部活動でも三年生が引退され、私たち二年生がリーダーとして活動しなければならない部も出てくるはずです。一年生のお手本となれるように頑張ります。また、勉強を計画的に行い充実した夏休みにしたいです。



○3年生 ○○さん

私は、一学期の反省と夏休みに頑張りたいことを発表しようと思います。一学期の反省は、主に勉強面での反省です。私は、三年生になってから、自分が受験生だということへの意識が以前よりも強くなり、レインボーノートに自分がその日の授業でわからなかったことやわかりづらかったことをまとめてみたり、苦手な教科の復習としてまとめテストを行ったりすることを頑張りました。でも、時間がない日や疲れた日、気分が悪い日などは、宿題が終わるとすぐに寝たり、好きなことをしたりしていました。私は少しでも気分が悪いと何でも後回しにしてしまいます。でも、その時は、まだ時間があると思っていても、実際はないことが多く、ワークなどはいつも提出期限の前日までかかっていた。私は今も今までも成績が悪いので、本当なら、提出物に焦っている場合ではありません。今までの勉強の復習にもかなりの時間が必要なのでこれから始まる夏休みを使って、忘れていた部分や抜けている部分を取り戻します。次に夏休みに頑張りたいことです。一つ目は、先ほど述べた勉強です。夏休み中は時間があるし、移動に体力を使わなくて良いので、きっと集中できます。二つ目は、生活のリズムを整えることです。勉強を頑張るには、習慣が必要です。ちゃんとした習慣が身につかないと、勉強に身が入る日とそうでない日ができてしまいます。私は早起きが得意なので、早起きして時間を有効に使い、生活リズムを整えたいです。三つ目は、コンクールに出す絵を妥協なく描きあげることです。私は、前から、ある絵画コンクールに挑戦しようと思っていました。私は絵を描くことが大好きで、自分が描いた絵を人が喜んでくれると、やりがいや自信や満足感を感じることができて、とても幸せな気分になります。私は、勉強も運動もコミュニケーションも苦手なうえ、不注意でたくさんのトラブルを起こしてしまいがちですが、絵を描くことだけは、いつも私の味方をしてくれます。なのでいつか必ず絵を描く仕事に就きたいです。このコンクールで賞が取れなかったとしても、毎日コツコツと少しずつ描くことが私の夢に近づく大きな一歩になると信じています。勉強も頑張りがちで、少しずつ丁寧に描いていって素晴らしい作品に仕上げたいです。こうして文章にしてみると、この夏休みはやることばかりで大変そうですが、きっと充実した夏休みは楽しいと思います。自分の将来のために精一杯頑張ります。



市中体（7月26日日曜日～29日水曜日）終了！

令和2年度の市中体は、新型コロナウイルス感染症対策のために、例年と大きく異なる形で実施されました。本校の選手は、全員がよく健闘しました。最後まで決してあきらめることなく、頑張りがちの選手の姿が多くみられました。私もその姿に感動して、たいへん嬉しかったです。今まで必死に頑張ってきた選手の皆さん、指導者の皆様、監督、顧問、コーチ、日々支えてくださった保護者の皆様、本当にありがとうございました。

平和集会での校長の話

今年もまた、長崎県民にとって忘れることができない「原爆の日」がやってきました。本日、改めて、平和について静かに考えてみたいと思います。今から七十五年前の昭和二十年八月九日、午前十一時二分、長崎市松山町の上空九千メートルから投下された原子爆弾が、地上五百メートルの上空で炸裂しました。皆さんは、その威力や、恐ろしさや悲惨さについては、これまでさまざまな学習を通して学び、平和の大切さを実感していることと思います。(略)

実は、私の祖父(私の父の父)は、東京都のはるか南、約1、200kmの小笠原諸島の南に浮かぶ硫黄島(いおうとう)でアメリカ軍と戦って亡くなりました。この戦いは、太平洋戦争の終戦間際におこなわれた戦いで、アメリカ軍にとって最も過酷な戦闘だったと言われています。この戦いで、アメリカ軍は26、000人が死傷して、日本軍は、21、000人が全滅(当時は玉砕という言葉が使われていました。)したと聞いています。その時、私の祖父は35歳で戦争中は、天皇陛下の護衛をする「近衛兵」だったそうです。そして、最後は、硫黄島(いおうとう)で戦死しました。祖父が亡くなった時、私の父は、わずか12歳でした。(略)私の父は、祖父が亡くなったことで、戦後、人に言えない、たいへんな苦勞をしてきたようです。また、私も、祖父の顔は、写真でしか知りません。このように、戦争によって、その後の人生が大きく変わった人は、私の父だけではなく、非常に多くの人たちが戦後、苦しんで生活してこられたと思います。私は、「戦争ほど残酷なものはない 戦争ほど悲惨なものはない。」と思っています。

だから、「もう二度と戦争を起こしてはならない! 最も苦しんだ人が最も幸せになってほしい!」と思っています。私たち一人一人がこれからの人生のそれぞれの場面において、戦争を起こさないために、平和を守っていくために、自分で考え、適切に行動することができるように、どうか今日の平和学習を生かしてほしいと思います。

